子育て支援だより

「子育てワンポイントアドバイス」

第135回　『わからないと思えばかかわり方が変わる』

みえ発達障がい支援システムアドバイザー　竹村　マミ

当然、知っていると思っていることがわかっていなかったり、何度も注意しなくてはならなくて困ったりしていませんか。このようなお子さんの中には、「発達に凸凹がある」場合があります。

例えば、“四季”が答えられるのに“犬の足の数”がわからない小学１年生や、電車の名前はたくさん知っているのに、赤いリンゴがわかっても青いリンゴはリンゴと認識できない子等。意外と難しいことをよく知っていたりするので、一般的な事は理解していると思われがちです。誰しも多少の知識の獲得に個人差はありますが、一般的なことが興味の有無や経験によって抜け落ちていたりするようです。こんな時、「どうしてこんな簡単なこともわからないの」「知っているのにごまかさないの」と言うのでなく、実際に犬の足を一緒に数えたり青いリンゴを食べさせてあげてください。

行動面についても例を挙げてみます。

活発でお喋りも巧みな４歳の子が、集会中、前に座っていた子の髪のリボンを触ったり引っ張ったりして泣かせてしまいました。お母さんが、「手で触ったり引っ張ったらダメでしょ」と注意したのですが、今度は、蹴ってしまったということがありました。大抵は、周囲の状況から判断しますが、本人は、注意された言葉の中に含まれた意味がわからず、“引っ張ってはいない”“足で触った”から良いと思ったのです。「触ってみたかったのね。でも、お友達は嫌だから触るのはダメ。見るだけね」と、子どもの気持ちを受け止めて相手の気持ちを伝え、“適切な行動”を教える必要があります。或いは、「『触ってもいい？』と聞いて、『いいよ』と言ったら触らせてもらおうね」とかかわり方を知らせてください。実際に触る時は、子どもの手を添えて力加減を教えることも大切でしょう。

「わかっているはず」と思ってしまうと、注意や制止だけになってしまいます。

年齢が上がれば、適切な行動を知らずに注意される行動を繰り返してしまうため、反抗的な態度になり、より不適切な行動をしてしまいます。わかっていてもやってしまう衝動性のあるお子さんは対応が変わりますが、何度も同じようなことを繰り返すのであれば、「どうしていけないかわかる？」「どうすればよかったかな？」と聞いて、わかっていなければ、適切な行動とその意味を具体的にわかりやすく教えてください。そして、何よりも大切なことは、良い行動の時にきちんと褒めることです。

気になることがありましたら、子育て健康課（377－5652）にご連絡ください。

２月活動報告

「小さな子どもを連れて図書館へ行くのは…」とためらっているお母さんもいるかも知れません。あさひライブラリーでは『赤ちゃんタイム』を設けています。お子さんとゆっくり、他の人に遠慮せず、たくさんの絵本と出会える時間です。ぜひ、お子さんと一緒にあさひライブラリーにお越しください！！

毎月　第２・４水曜日
10時～12時